

2学期 ご協力ありがとうございました

◇ 暑い夏の日が始まった2学期がまもなく終わります。全国で新型コロナウイルスの感染が続き、運動会、音楽会、修学旅行等2学期の行事も例年とは異なる形で実施してきました。1学期に休校した期間の授業の遅れも、夏休みの短縮、行事の見直し、単元展開の工夫等により取り戻してきています。

先日は、密を避けるため、分散型で今年度初めての授業参観を実施しました。緊張する中にもうれしそうな子どもたちの姿。今年度2回目となる学級懇談会も行いました。感染防止にご配慮いただきながらたくさんの保護者の皆様においていただきました。ありがとうございました。

保護者の皆様、地域の皆様には様々な場面で、感染防止も含め子どもたち、学校を支えていただきました。ありがとうございました。感染症が早く治まり、来る年がよい年であることを祈念いたしております。



○ 今年初めて行われた支部児童会。支部の活動も困難な中でしたが、各支部では工夫して活動に取り組んでいただきました。コロナ禍の中でつながりが薄れがちな時、あらためて地域でのつながりの大切さを感じています。

〈いただいたご意見から～感染予防に係わって～〉

□学校への欠席連絡

・感染予防のため、連絡児童を通さずオクレンジャー返信機能の活用も可とさせていただきました。また学校からのお届けは、対面を避け、ご自宅ポストへの投函とさせていただきます。ご協力よろしくお願いたします。

□授業参観の持ち方について

・今回は、地区別に2グループに分けそれぞれ1時間ずつ入れ替えの参観とさせていただきました。午前中自由に参観いただくことも考えましたが、参観人数が予測しにくいことや児童、職員の負担、行事等日課との関係などを考えこのような形とさせていただきました。3学期の参観については、インフルエンザも含めた流行状況、連学年参観となること等考慮しながら計画させていただきます。

◇ 参観日に合わせて、コミュニティースクール推進委員会を行いました。

推進委員会は、学識経験者、PTA役員経験者、地域、CS運営委員会の代表の方等に参加いただき、学校運営全般にわたって助言、評価をいただいています。

今回の委員会では…

- ・これまで経験したことのない状況の中で学校運営、教育活動が行われている。学習形態や学習問題、板書等工夫された授業が行われている。生き生きした児童の学習のためにこれからも努力してほしい。
- ・感染予防のために十分配慮していることが感じられる。感染予防と同時に、児童が楽しく、少しでも身体を動かして活動できる取り組みをお願いしたい。
- ・コロナ禍において、学校が適切に対応できているように思う。野沢小学校特有の地域のバックアップも強みである。強みを生かしたい。
- ・野沢会館改築に伴う学校周辺の交通状況の変化がこれからも長く続くことが予想される。地域、PTAと協力し、登校時等の児童の安全確保に配慮したい。
- ・これからも低学年からの一人ひとりの育ちを丁寧に支えるとともに、不登校等の児童の「今」にしっかりと寄り添ってほしい。
- ・社会的に弱い立場にある家庭や子どもの貧困等についても地域といっしょに考えていきたい。
- ・大変な状況に立ち向かっている教職員にも家庭がある。職員の心の健康、課外の活動を含めた業務の負担等にも目を配り、その部分への配慮も必要である。

保護者懇談会等様々な場面で寄せられるご意見や今回いただいたご意見をこれからの学校運営に生かしていきたいと思っております。



教頭の目

昨年の「やかた12月号」に国際コーチ連盟プロフェッショナル認定コーチの石川尚子さんのお話を掲載しました。今月はその第2弾を紹介させていただきます。

子どもの自己肯定感を育む「教え過ぎない」子育て 【やる気を引き出すコーチング】

職業柄、新年度が始まると、多くの新入社員と接します。研修のお昼休みに、社会人になったばかりのAさんから非常に心に残るお話を聴かせてもらいました。彼女は、ついこの前まで学生だったとは思えないほど、落ち着きがあり、自分の考えを自分の言葉で話せるとても聡明な人でした。

話を聴きながら、彼女がここまで成長する過程には、そんな体験があったからなのかと深く考えさせられました。Aさんのお話をぜひ、紹介させていただきます。

●手と口の出し過ぎが子どもの自己肯定感を下げる

「私の両親は、すごく私を大切に育ててくれたと思います。特に、母は、私のことを大事に思うあまり、過保護なところがありました。小さい頃から、私がモタモタしていると、すぐに手を出してくるんです。例えば、靴ひもがうまく結べないような時も、『ほら、貸してごらん！私がやってあげるから』って、『今日は寒いから、これを着て行きなさい』とか『帰ったら、まずうがいして』とか、いちいち言っていました。

私には勉強してほしいからと、家の手伝いもあまりさせませんでした。何か手伝おうとすると、『いいから、あなたは勉強に時間を使いなさい』と。学校での悩みを少しでも話そうものなら、過剰に心配して、『先生に言ってあげようか』とか『こうすればうまくいくよ。こうしなさい』と口を出してくるんです。

高校に入った時、周りの友達がすごく大人に見えてびっくりしました。友達は、自分のことは何でもパッ！とできるし、自分の考えを持っているし、すごく劣等感を覚えました。『親にやってもらわないと何もできない自分』と認めて、自己肯定感は低かったです。

もちろん、親には感謝していますが、今、思うと、あのままずっと手や口を出され続けたら、自分では何もできない大人になっていたと思います」

●「教えない」と子どもは自分で考える

「何か自分を変えたいと思って、高校2年生の時に、留学することにしました。親元を離れて、カナダに1年間行きました。ホストファミリーは、うちの親とは違って、いい意味で、まったく親切ではありませんでした。初めての海外生活で、使い方がわからないものもあるのに、直ぐには教えてくれないのです。

『どうすればいいと思う？まず自分なりに考えてやってみよう』という感じです。いつも、私に質問をしていました。『今日はどうする？あなたはどうしたい？』って。

冷たいわけではないんです。常に、私の意思を尊重してくれていました。当然、最初は戸惑いましたよ。でも、慣れてきたら、それが当たり前になって、自分で決めることで、自分にも自信がついてきました。自分で考えて自分でできる！と思えた体験は本当に大きかったです。

おかげさまで、社会人になりましたけど、今、不安なことはあまりないです。これからも、自分で考えて、いろいろやってみたら、なんとかなるかなって。社会に出たら、自分で考えて自発的に動くことが求められるって、石川先生も研修でおっしゃっていましたよね！」

●子どもが自分で考える過程を奪わない

コーチングがなぜ、子育てに必要なのか、その理由を、Aさんが身をもって証明してくれたようなお話でした。親は良かれと思って、子どもにあれこれ手をかけて教えようとします。そのことによって、子どもが自分でできるはずの力を奪ってしまいます。「自分でできた！」という体験がないと、自己肯定感は下がります。

また、1から10まで教えることで、「全部教わらないとできない」という思考の枠を子どもにはめまします。だから、「教わっていないことはできない」と思い込んで、自ら「やってみよう！」とは思わなくなります。教え過ぎることは、なんとも罪深いことだと思います。子どもの成長を本気で願うのなら、「自分で考え、決め、やってみる過程」を大人が奪わないことだと、Aさんと出会って心から感じたと思います。

●「自分でできた」という達成感が自己肯定感に繋がる

勉強でも、生活においても、我が子が困っていたりわからないことがあったりすると、つい「こうやるんだよ」と教えたくなるものですが、保護者のかたは、それをぐっと我慢する場面も大切です。課題や問題に出合ったとき、お子さま自身がやり方を考え、自らの力で解決できたという経験が「自分で考えればできるんだ」という自己肯定感に繋がるからです。

宿題がわからなくて困っているときにはさすがにヒントなりやり方なりを教える必要がある場合もあるかも知れませんが、全部教えるのではなく「子どもが自分で考え、判断する機会を奪わない」というのは、教員として、親として、大人として次代を担う子どもたちのために意識していきたいと思っています。

コロナ禍ではありますが、家族一緒の時間が増える年末年始です。お子さんが「自分でできた！」という達成感をたくさん味わえる冬休みにしたいですね。そしてまた3学期から決意も新たに笑顔でスタートしていきたいと思っています。本年も大変お世話になりました。よいお歳をお迎えください。

12月下旬から1月の予定

12月

21日(月)～24日(木) 全校5時間授業

25日(金) 2学期終業式(4時間授業)

年末年始休業 12/26(土)～1/6(水)

1月

4日(月) 引落日⑨

7日(木) 3学期始業式(4時間日課)

8日(金) 1年そり教室、5・6年スキー教室〔パラダ〕

11日(月) 成人の日

12日(火) 児童会

15日(金) 月曜時間割

20日(水) PTA反省会

22日(金) 児童会〔演説・選挙〕

26日(火) 児童会〔反省〕、CS運営委員会

30日(土) 佐久重唱発表会